

右方は名古屋奈良與兵衛方也、

〔江戸名物詩初編〕豊島屋白酒神田鎌倉河岸

白酒高名豊島屋、氣強色薄一家風、人々欲買多難買、賣始賣終半日中、

〔江戸總鹿子新增大全七〕江府名物并近國近在土産

博多練酒

本所表町 金や長左衛門

山川白酒無類名物

山川酒所々家々にありといへども、此家の製を以て名物とす、片土に住すといへど、彌生の頃は門前に市をなせり、桃李ものいばず、をのづから徑をなすとは此事なるべし、此家の祖、諸國を經歷せし時、筑紫に到り、練酒製法の傳を得たりとぞ、

富士の白酒 淺くさ

〔扶桑名處名物集駿河〕白酒

石臼をみせにかざりて旅人を引きとめてうるふじの白酒

木春

一杯でおかれぬ味のよし原とかさねて通る不二の白酒

乗方

〔和漢三才圖會百五〕釀略〇中

練酒チリサケ 筑前博多之練酒得名、似白酒而甚粘、其味甘美也、蓋此與白酒一類製之精者矣、下戸及婦人

小兒好吃之、多飲則痞滿、

〔童蒙酒造記四〕練酒之事

一餅米壹斗上白食に蒸し、人肌或は人肌強く時節によつて也、

一地酒壹斗入搔合せ、群なき様にして桶に入、口を張置、七日過口を開け、石磨にて引、又桶に入口を張置、又自是七日過口を開賣べし、引て直には風味出ずして辛き物也、右の如く日數を経て甜

練酒